

間を存在の中心に置くことである。それは存在を人間に於て理解することであるとともに、人間を存在との關聯に於て把握することではなければならぬ。

一言にしていへばヒュマニズムとは人間を單なる *Existenz* としてではなく、*Existenz* として把握することに外ならなかつたのである。

彙報

哲學茶話會豫告

時 十二月九日(土)午後二時
 處 京大文學部會議室

「聖アウグスチヌスとマニ教」

山田 晶君

京大哲學史教室

美學會關西大會

十月十四日(土)午後二時 於 京大文學部第八教室

一、構想力に關する一考察 北島常道

一、美意識の展開として見たる「幽玄と花」 龍村 謙

正誤表 (特に必要と認められるものについて)

河野靈善氏「鎌倉淨土教の時間論的展開」

頁	行	誤	正
三百九十四	四二	一七	百遍を言
同	五〇	三	念佛に多な
			念佛に外な

山本清幸氏「思辨論理の可能性に就いて」

頁	行	誤	正
三百八十八	二	撞着	撞著
同	七	Wescn	Das Wesen
三百九十三	五四	撞ぎ	撞き
同	五五	Sebeling	Schelling
三百九十四	三五	イデアリズム	イデアリスム
同	三八	des	des
三百九十五	二五	Regulae J2	Regulae, Xii
同	三二	あひし	あひし